

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4472600594
法人名	医療法人 社団栄仁会
事業所名	グループホーム さるびあ
訪問調査日	平成21年7月29日
評価確定日	平成21年9月10日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4 4 7 2 6 0 0 5 9 4
法人名	医療法人 社団栄仁会
事業所名	グループホームさるびあ
所在地 (電話番号)	臼杵市野津町大字宮原1181番地 (電 話) 0974-32-2730

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年7月29日	評価確定日	平成21年9月10日

【情報提供票より】 (平成21年7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 11 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	11.625 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500(税別) 円	

(4) 利用者の概要(平成21年7月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	78 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩田医院 岩田リハビリクリニック 県立三重病院 天心堂へつぎ病院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 紡績工場だった建物を利用してこのグループホームは作られており、天井が高く広々として南向きで明るい。そして利用者の負担軽減に配慮し、家賃部分を無料としている。
- 2 隣接するクリニックに医師が常駐しており、医療面で安心できる。
- 3 意欲的な管理者のもと、グループホームの在り方を追求して積極的な取り組みを実践をしている。本人の自立支援、本人と家族との絆の構築、地域住民との交流などにそれが見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題は、「災害時の備蓄」が整備されていない点にあったが、今回はユニットごとに3日分の食料、水などが完備されている。</p> <p>外部評価の意義をよく理解し、職員全員と一緒に自己評価に取り組んでいる。毎日、10項目ずつ自己評価し、ミーティングで話し合い、まとめを行っている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1度定期的の実施され、ホームでの取り組みの状況などを報告し、意見交換をしている。参加者からの協力を得て、消火活動や避難訓練、公民館活動への参加など、運営推進会議が実体的なものとして機能している。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が意見を言いやすいように普段からの交流を大切にしている。家族から意見があれば、ミーティングで話し合い、すぐに対処している。苦情としては上がってこないもので、運営についての意見などを聞くためにアンケートの実施を考えている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人の納涼祭を地域と一体になって実施しており、300人を超す住民の参加があり、夏の楽しみ事となっている。利用者も地域の行事や敬老会に参加している。グループホームの敷地が災害時の避難場所にもなっており、有事の際の連携についても話し合いが行われている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を全職員で見直し、地域との交流を大切にした支援を行っている。研修やミーティングで音読して職員の意識を喚起するように図っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示して、理念に基づいたケアができていくかどうかを日々確認している。		
2. 地域との支えあい					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会などの催しに利用者が参加したり、校区の児童の訪問など地域との交流を大切にしている。また、法人の納涼祭には多数の住民が参加してくれるなど楽しみにしてもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、ミーティングでは10項目ずつ区切って意見を出し合っている。現状を認識することや取り組みの意味を理解することに役立っている。		
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	幅広い立場の人々の参加により、2ヶ月に1回定期的に開催されている。各々の職歴を活かした提案をしており、有意義な会議となっている。ホームの取り組みや状況も報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員が2か月に1回の運営推進会議にきちんと出席しており、グループホームの取り組みや状況を理解している。話しやすい間柄となっていて、細かな相談も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の近況を報告して意見や要望を聞いている。また、定期的に電話や手紙で近況報告をしている。ホームの現状や活動の取り組みについては定期的に報告書を作成して送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には必ずスタッフが対応して、それとなく意見を言ってもらったり、ホームへの要望を聞いている。意見や要望はミーティングで話し合っ改善に努めている。また、アンケートを実施する計画がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職時には、早い段階から二重勤務にして利用者への影響を最小限にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は若い職員の育成に力を入れており、定期的な研修会の開催やミーティングでの指導を行っている。とくに、職員同士が仲良くしてお互いに研鑽を積むことや、自発的な気付きを大切に指導を行うようになっている。法人も外部研修の受講を積極的に奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの見学を行い、交流を図る機会を作っている。標準的な取り組みは行われているが、より充実した交流をめざしている。	○	臼杵市内にとどまらず、良い取り組みを実践しているグループホームとの交流を図りたいとの希望があり、それに向けての検討が行われているので実現に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には必ず本人も見学してもらい、納得した上で入居してもらっている。また、併設のデイサービスセンターを利用しながら職員と馴染みの関係になり、その上で入居する方法もあることを家族に話している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は一日の生活を通して、それぞれの能力に応じてできることをしている。利用者は全部を通してできなくても一部分を担当してくれることで職員も助かっている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望に合わせて、買い物や自販機での購入や、馴染みの店での散髪などの対応を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の全員参加のカンファレンスを行い、意見交換を行うとともに、面会時に入手した要望や情報を検討して利用者の気持ちに沿った介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの見直しを行っている。しかし、見直し以前に計画の変更が必要となった場合には、随時、検討し変更を行っている。家族の意見も聞いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一日の生活の流れはあるが、本人の様子をうかがいながら枠にはめない柔軟な対応を心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を聞き、ある場合にはそのまま受診してもらっている。同法人の医療機関を希望した場合は、受診時の対応は職員が行い、家族にはその結果を伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族に対して終末ケアや医療連携の話をしている。本人や家族の望む方針を尊重し、終末ケアについてもグループホーム内でできるよう体制を作っている。	○	終末ケアへの体制はできているが、全職員が対応できる力を育成するための研鑽が必要と管理者は考えている。これからも重点的な取り組み目標としているので、期待する。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、ミーティングの際に職員間で話し合い、常に意識付けをしている。また、新人採用時には詳しい説明を行い、理解してもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが自由に過ごせるように、本人の思いをくみ取る言葉かけをしている。外出や外泊、起床や就寝時間、食べたい物の選択など、希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も同じテーブルについて一緒に食べている。無理に勧めたり細かなことを言ったりはしない方針である。自力摂取を大切にして必要な部分だけを支援している。下ごしらえや後片付けなどもできる人と職員が一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回の入浴を行っている。風呂に入りたがらない人も何人かいて、その人には声かけを工夫をしたり、夜間に入ってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブや散歩、外食の機会を多く取り入れて楽しみごとを作っている。また何らかの役割を持ってもらえるように、それぞれの力に合わせた仕事を頼んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由な外泊や外出の機会が多くなるよう、家族とも話し合いをしている。散髪や買い物、散歩など、本人の希望に沿った対応をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることをしないで、出入り自由になっている。外へ出る人には職員が付き添い、一緒に周囲を散歩することで精神的な交流を図る場になっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	市の消防署の協力で定期的に消火訓練を行い、消火器具の点検もしている。マニュアルを作り、全職員が災害時に対応できるような工夫をしている。利用者には毎週木曜日に散歩を兼ねて避難場所への誘導を行っている。備蓄についても、グループホームに3日分を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎回チェックし、個々人の摂取量の把握をしている。摂取量の低下が見られた場合には集中ケアを行い、食べる物や好きなものを記録しておいて、それを出すようにし、摂取意欲の向上に繋げている。水分量についても配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、居心地よく過ごせるように、季節の花や飾りつけに工夫をしている。皆と過ごしたり一人で過ごせる場を選べる十分な広さがある。また、テーブルではともに食事の下ごしらえや、季節ごとの梅干しや干し柿などをこしらえて、季節を実感する場にもなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室の外側に日当たりのいいサンルーム(廊下)があり、隣の部屋ともつながっている。仲のいい人同士がそこでおしゃべりすることもあり、このスペースが解放感にもつながっている。個室には家族の写真や飾り物がある。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム さるびあ グループホーム さるびあ 東棟
所在地 (県・市町村名)	大分県臼杵市
記入者名 (管理者)	平山 悦美
記入日	平成 21 年 7 月 8 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	理念のなかに地域の方の通信や交流が図れるよう掲げて支援している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	ホーム内に掲げ利用者、職員で理念を目にする機会を作っている。理念に向けたケアの方向性を目指している。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	入居時家族には地域へでかけることを説明し理解を得ている。近年地域との交流を図る機会が増え地域の方にもグループホームさるびあを知っていただく機会が増している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近所の畑にきた方が、収穫した花や野菜を持ってきてくれたり、ありがたい交流が来ている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の老人会に招待されたり、行事等に参加する機会が増し、地域の方も交流を楽しみに待ってくれている。又、小学校や幼稚園児との触れ合う機会も多い。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域に対する認知症の啓発活動や認知症のサポート養成等に関わっている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は、職員全員で取り組み行うことで、さるびあの状況や取り組みの意味や重要性を意識付けている</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>二ヶ月に一回推進会議を行い、ホームの現状と取り組みの報告を行い、意見を聞き反映へつなげると共に、推進委員の協力のもと地域交流や防災対策も十分図る事ができている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>二ヶ月に一回の推進会議に毎回参加頂き、ホームの取り組みや状況を理解頂いている。又、快く相談事等にも応じてくれ十分な協力を頂いている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在は対象者は居ないが、専門の関係者とも交流を図ったり、研修等の機会には職員も参加している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>拘束廃止の取り組みを全員で行なうと共に、何か変化があればミーティング時に報告や、夜間・入浴時の観察状況の報告等を行っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行なうと共に、状況変化時には随時家族に報告、相談を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コミュニケーションの重視を図り、言葉の中に思いを探ったり、また、定期的に相談する機会を設けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に要望や意見を聞いたり、定期的に電話や手がみにて近況を知らせている。又、ホームの活動状況を理解頂くために活動報告書を定期的に送っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時必ずスタッフが対応し意見を聞く機会を設けたり、ホームに対する思い等を尋ねている。もし意見があったときには、その日のミーティングにて早々に話し合い、改善へ努めている。	○ 苦情がないことを良しとせず家族へアンケートをお願いすることも考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別面談を行ったり、一日二回のミーティングや、毎月の研修会・カンファレンス等にてスタッフの意見を聞く機会を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	24時間利用者を支える為、利用者の状況に合わせた、勤務のローテーションを組んでいる。又、状況によりスタッフの確保が必要な時には、スタッフ間で話し合い勤務の調整を行なっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	部署移動や離職時、勤務日数の猶予を図り、新人職員と重なった勤務をすることで利用者への影響へ配慮している。又、利用者、新人職員それぞれの自己紹介を行い関わりへの配慮をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回の職員研修会を行いいろいろな分野での知識を広めている。又、必要状況においてミーティング等にも指導的な時間を柔軟に設けている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	臼杵市内のグループホームの見学を行い交流を図る機会を作っている。	○ 臼杵市以外のグループホームの見学を行ないたいとの希望あり検討している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者であるDrの身体相談の受け入れ、又、年に数回法人内の懇親会を設けていただき、個別的な相談や励ましをもらう事が職員間の励みとなっている。ホーム職員間でも毎月一回皆で食事に出かけ、いい仲間意識が図れるよう工夫している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格修得時の協力体制やその後の研修参加に積極的協力を頂いている。又、個々人の個性を大切にその能力を引き出せるような職場づくを目指している。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時、本人、家族より話を聞き要望に応えると共に、ホームに慣れる間スタッフ間でケアの強化連携を図りコミュニケーションを行ったり、周囲との交流を図る機会を提供したり、不安のないよう配慮している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族の思いに添えるよう状況に応じたサービスの相談等を行なっている。(状況により、併設のデイサービス等の紹介等)	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じ居宅サービスとの連携を図り支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望される方には、家族のみではなく必ず本人にホームを見学頂いている。又、併設のデイサービスを利用しながら職員となじみの関係を築きながら入居できる方法もあることを家族に話している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の生活の中で共に共同生活を行っている。それぞれの方のできる能力に応じ、掃除、洗濯、料理、食器拭き等手伝ってくれ助けられている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	必要状況に応じ家族との連携を図っている。それぞれの家族が皆協力的である。又、外泊、外出が自由であることで遠慮なく出かけられる事が本人、家族の安心に繋がっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームでの取り組み等、事業報告や広報誌で知らせると共に、家族交流会で食事作りを行ったり、他の行事等にも参加頂いている。	○	ホームの生活状況を知っていただくために、ご本人の手紙を添え、写真を送ることも考えている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スーパー、理髪店、美容室等の対応や、生まれ育った地域や家の近くのドライブに出かけたり、知人の面会は積極的に受け入れている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの出来ることで役割活動に参加頂き、出来ない方へも利用者同士で声かけ励ましている。利用者間で助け合う雰囲気作りができています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去先の施設へ面会に行ったり、病院へ逢いに行ったり、状況によって継続した交流を図り、必要状況に沿ったサービス支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物や散髪、自動販売機での購入等、本人本意に沿った対応を支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から聞き取りを行ったり、本人の言葉より話の中から探っている。又、知人、親戚来訪時に情報を把握するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1人1人の出来ることの方の見際目を行い、力に応じた役割活動の参加を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回スタッフ全員参加にてカンファレンスを行い意見交換を行なうと共に、面会時に家族より入手した要望や情報等について検討し、利用者の気持ちに沿う介護計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しをおこなう、しかし状況により、計画変更が必要となったときには検討、変更を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に残し、居室担当者が内容の状況をまとめ、カンファレンスで発表し、状況変化に応じケアプランの変更を行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携を行い、状況変化時受診せずともすぐにDrの対応をいただいている。又、歯科医院の協力により緊急時もすぐに対応してくれ、利用者、家族も安心している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員の協力にて、民生委員、地域消防団、児童クラブ、福祉高校、小学校等来てくれる事が増えている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	身体状況の変化時、他の施設への移行時等、介護支援事業所との協力を行なっている。又、他の介護支援事業所よりの利用者の紹介も頂いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの行なう研修に参加したり、又、運営推進会にも毎回参加頂き、意見等を頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医の希望を聞き、優先している。当法人でのかかりつけ医を希望した場合は、家族の負担の軽減を図る為、受診時の対応はスタッフがを行い、受診結果は家族に伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要状況に応じ、協力病院、又は、家族が希望する病院に、当法人を介し受診の支援をしている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週3回看護師来訪にて健康管理を行なっており、その状況をDrに連絡、必要時には診察や往診を行なっており、十分な連携が図れている。(Drは身体的、精神的状況を把握してくれている)看護師来訪日以外でも連絡体制ができています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、スタッフが付き添い状況報告を行うとともに、その後スタッフが交互に見舞いに行き精神面の配慮に努め認知症の悪化予防を図り、ダメージなく退院できるよう対応している。面会に行くことで、退院の状況の把握も出来、受け入れ態勢へつなげる事が出来る。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末ケアや医療連携の話はしている。家族、利用者の望む方針を一番と考えており、必要状況に応じた体制はできている。	○	終末期に向けた体制はできているが、スタッフ全員が対応できる力を必要とするためにも、重度対象者に向けた勉強会を強化する必要があると考えている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の利用者に対する往診の体制や、緊急時の医療連携も図れている。家族等にはその時々々の状況変化を知らせ、必要によりDrとの面談も行なえるよう配慮している。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と十分な話し合いを行ない、又、移転先の介護支援専門員との連携にて、ホームでの生活情報を提供し継続した支援のために協力理解を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ使用の声掛けや入浴時のタオル等の配慮、又、新人採用時秘密保持の徹底を伝え、他のスタッフにもミーティングの折々に話をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	状況によりそれぞれの思いを聞く機会を作っている。食べたいもの、行きたいところ、したいこと、理解力の低下で、自ら訴えの出来ない方にもできるだけ思いに沿うよう配慮している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の時間に縛られることなく自由に過ごせるように本人の思いに耳を傾けている。外出・外泊の自由、寝る時間の自由・食べたい物の自由等その人の暮らしを大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	それぞれの出来ることで役割活動に参加頂き、出来ない方へも利用者同士で声かけ励ましている。利用者間で助け合う雰囲気作りができています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれが、馴染みの美容室や、理髪店を利用している。又、お店の方の協力を頂き、終わったらホームの方に連絡を頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の意思を尊重している。自由に買い物をし食べることに配慮、飲酒等は家族・本人の希望に添っている。又、自動販売機を頻繁に利用する利用者も支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	身体的重度化した利用者に対しても、安易にオムツをすることなくトイレへの支援を行なっている。又、個々人の排泄パターンを記録し状況の理解、一日の排泄管理を行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を行なっている。希望に添って夜間入浴やシャワー浴も行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中興味ある活動に参加したり、野外での活動・日光浴等の支援にて安眠へつながるように配慮している。又、自由に身体を休めるように適宜場所にソファを配置し休息できるように環境を整えている。又、就寝までの時間自由にテレビを見れるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブ、散歩の機会を多く取り入れたり、外食に出かけたり楽しみごとを作っている。それぞれの力に合わせた役割活動の場は、利用者同士のコミュニケーションの場でもあり、利用者の楽しみの場でもある。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、家族と相談し、状況に応じた所持金を持つことを理解頂いている。残り少額になった時は家族に連絡、補給頂いている。自己管理が出来ない利用者はホーム側で管理し使用時支払いの支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散髪・買い物・ドライブ・散歩・野外での活動・自由な外泊、外出 本人、家族の希望に添った対応をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じ、地域の名所や他に聞いていい場所があれば、見学やドライブに出かけている。外泊、外出が自由であることから家族と出かける機会も多い。又、外食の機会等も取り入れられている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文字を書ける利用者には、年賀状や暑中見舞いの手紙を書くことを補佐し家族に送ったり、希望があったり、必要状況に応じ、電話を掛ける支援もおこなっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由であり、家族・知人来訪時には、本人との時間をゆっくり過ごして頂くために場所を提供したり、湯茶等を出し快く向かい入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強する機会を多く持ち、ホームの玄関にも身体拘束排除理念を掲げ、スタッフ間の意識を高めた取り組みを行なっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内のどこにも鍵を掛けることなく、出入り自由に配慮している。時折外へ出かける方が居るが、無理に引き止めることはせず共に付き添い周囲を散歩することで精神的交流を図ることに努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	適宜箇所にスタッフを配置し、利用者の一日の行動パターンを把握すると共に、行動時さりげなく付き添うよう欠かさず配慮している。夜間は一時間毎の見回りにて状況確認を行い、常にホーム全体が見渡せる場所で見守っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	数等の確認を行い、場所もきちんと保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応や嚙下低下の人の食事摂取状況を自らも体験してもらう研修等も行なうことやミーティング等にて利用者の状況変化をスタッフみんなで共有できるよう報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法の参加や必要状況に応じミーティング等にて事あるごとに指導を行なう機会を設けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	白杵市消防署や地域消防団の協力を頂き、消防訓練や消防危惧の点検等を行なっている。又、訓練時のマニュアルを作りを行い、職員全員が状況時対応できるように工夫をしている。利用者には、毎週木曜日散歩も兼ね避難場所の理解を支援している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	常に行動の自由を前提としたケアを目指していることで、入居時家族等には話している。最大限の配慮を行い利用者の安全管理に努めている。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に利用者の観察を行い、状況変化時には隣接のクリニックとの連携を図る事ができ、すぐに対応頂く等十分な医療支援を行う事ができている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の服薬処方ファイルを見れるようにすると共に、服薬変更時には連絡帳にスタッフ全員に周知できるようにしている。又、服薬変更時の観察等も行なうことをスタッフが理解している。個々人の服薬ケースを作り仕分けすることで服薬間違いのないよう努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行なうことで個々人の排便管理を行なっている。又、食材に、サツマイモ、南瓜、野菜等を多くとりいれ便秘予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎回食後に歯磨きや口腔ケアを支援し口腔内の清潔に努めている。義歯利用の利用者にはスタッフが装着支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎回チェックし個人個人の摂取量を把握することに努めている。状況により、おにぎり、粥、刻み等にて対応、出来るだけ自力摂取を支援している。又、食事低下が見られたら、スタッフ全員で集中支援を行い食事の工夫等講じ摂取意欲へ繋げている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の研修や勉強会を行い、利用者の身体状況の変化の把握を行ったり、スタッフ自ら健康管理を行い媒介者とならないよう意識付けを行なっている。又、玄関先に、面会者や来客者への消毒やマスク等の使用協力をお願いしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板の漂白や食器類の乾燥、スタッフの手洗いの徹底、冷蔵庫の掃除を行ったり、食材はその日のうちに使い切るよう配慮し心がけている。		
n				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口に花を植えたり、心癒されるような絵を飾ったりし、親しみやすい雰囲気作りの配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	座りして過ごす場所に、心を癒す絵を飾ったり、季節の花を飾ったり、共に食事づくりを実感したり、季節ごとに栗ご飯、干し柿、梅干漬け、オヤツ作り、等を行い季節感を実感していただく機会を工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が見える広縁や談話室にソファ等を置き、利用者同士の会話を楽しめる環境を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に写真を持ってきてもらったり、スタッフの手作りのプレゼントやホームの生活写真等を飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	排泄後の臭い対策やトイレ掃除を日に3回するなど淀まない空気対策に力を入れている。換気や湿度・温度調節に配慮したり、利用者にも心地よい生活への配慮を行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を維持する為に最大限の自立支援を行なっている。設備的に不十分な部分には椅子等を利用し安全への配慮を行なっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症状のどの部分で日常生活に支障をきたしているのかを見極め、その状況に応じた対策を講じ、その人が自立した日常生活が送れるよう支援している(トイレの場所・居室の場所の目印)(歯磨き等の砂時計)等々		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	環境的広い中庭を活用し多くの活動を行なっている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・できる限りの自立支援にて現状維持への取り組み
- ・役割活動にて、生き甲斐支援
- ・臭い対策(身体の清潔支援)(ホーム内の掃除)
- ・地域交流(幼稚園生・小学校生・中学校生・高校生・地域住民との交流や行事参加)
- ・身体拘束のない暮らし
- ・家族交流
- ・職場で得た知識を地域の中で還元(認知症の啓発活動)
- ・ドライブや外食
- ・戸外での活動行事

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム さるびあ ＜西棟＞
所在地 (県・市町村名)	大分県臼杵市
記入者名 (管理者)	染矢 悦子
記入日	平成 21 年 7 月 7 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>入居者の日々の暮らしや地域の人々や家族との絆を大切に理念を見直したり、交流の継続に向けたサービスを行なっている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>月2回のスタッフミーティングに行なった上で話し合い、具体的ケアについて掘り下げ統一したケアを並行なえるよう理念を読みながら全員で取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域の方との交流を持つ機会が徐々に増えており、地域の方のグループホームに対する理解が出来ている。</p>	
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近くの幼稚園の子供たちが散歩の途中で立ち寄ったり、近所の畑の方が育てた花絵を持って来てくれたり、地域の行事に参加したり、交流できる雰囲気づくりに努めている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区の公民館の行事(敬老会・ふれあい音楽祭等)に参加し、地域の協力もあり出かける事が多い。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の中で認知症の理解を図る為キャラバンメイトとしてサポーター養成に参加している。また高校や専門学校の実習生を積極的に受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングにて、外部評価の結果の報告を行い、改善点など話し合いケアへ生かしている。また運営推進会議においても外部評価の結果の報告を行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動の様子等を報告し、また推進委員の協力により、防災訓練を実施したり、グループホームへの理解を地域の方に協力頂いたり等の取り組みを積極的に行なっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の委員に地域包括支援センターの方や、市役所の方、公民館の方などがいて、アドバイスを頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	保健センターなどで行なわれる、成年後見制度について学べるよう、折りに触れ職員を研修に参加させている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内のミーティングや研修などにて学習の機会を設けており、入居者の十分な観察を行い、報告したり理解が出来るような取り組みを行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
、			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	市外のグループホーム見学や交流等も行ってみたいと考えている。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で行なわれる研修にも参加できるように配慮し、ホーム内研修も月一回のペースで行なっている。その際、研修参加者に発表してもらいスタッフ間で共有している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム大分県連絡会実践セミナー等の研修に参加したり、市役所を通じて他の市内のグループホームとの交換会等の取り組みを行っている。	○ 苦情等の意見がないことを良しとせず、家族へのアンケート等を考えている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	Drによる健康管理や法人の親睦会、またスタッフ間で月一回の食事会などを設け、悩み事や相談など聞く機会を持っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々人の能力を活かせる場面を提供したり、向上心を持って働けるよう、資格修得に向けた支援を行なっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望があった時点で、本人・家族等ホームの見学をして頂き、入居申請をして頂いている。入居後は本人の思いに向き合い不安がないようスタッフとの関係づくりに配慮している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初めて相談に訪れた際は、困っていることを十分に聞き、事業所としてどのような対応が出来るか、事前に話し合っている。また、入居後の状況など面会時に報告し意見等聞いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り柔軟な対応を行い、法人内の居宅支援介護センターなど他の事業所のサービスにつなげる配慮を行なっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームを見学して頂、本人や家族の納得の上で入居頂いている。また、併設のデイサービス等の利用をしながらスタッフとの馴染みの関係を築きながら安定的な利用につなげるよう、家族にも協力頂いている。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、利用者から助けってもらったり、昔のことを教えてもらったり、本人の持っている力への働きかけを支援することで、共に支えあう関係づくりが築けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面接に見えた折は、食事を共にしたり、各行事と一緒に参加して頂いている。また、入居者の状況については随時連絡をいれ、不安等解消できる支援を行なっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思いや状況に応じて家族に連絡している。また、外出・外泊にて家族と過ごす時間を設けたり、ホームのイベントの参加を呼びかけたりして交流が図れるようしている。	○	今度、更に利用者自身が手紙を書き、ホームの近況を家族に伝えることを計画している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理髪店・美容院・スーパー・郵便局・銀行など、それぞれに応じた要求の対応を行なっている。また、デイケアを利用されている近所の方や友人との交流の支援も行なっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	洗濯たたみ・掃除等、日々の生活の中で役割をつくり、スムーズに役割活動を行なっている。レクリエーション参加時、隣同士話しやすい雰囲気づくりをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後の家族でも町であつたら声を掛けてくれる事があつたり、法人の催しに参加を呼びかけ協力を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物・外出等の要求に添うよう配慮している。また散歩やドライブに出かけたり、日々の生活に変化を付けストレスが溜まらない様配慮をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし等、個人の生活環境が活かされるよう、日々の暮らしの中で取り組んでいる。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人のできる力を見極め、役割づくりの支援を行なっている。またそれが、継続できるよう生活の中のリハビリを支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月スタッフ全員で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行い、面会時の家族の意見等の報告を行い介護計画に生かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヵ月毎の見直しを行なっているが著しい変化があれば、その都度介護計画の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や変化等記録に残し、ミーティングなどにて意見交換をしながら、介護計画や見直し等に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	予定以外の外出・外泊に対しては、本人・家族の要望に応じて対応している。また医療機関の受診時も家族と共にスタッフが付き添い、ホームでの身体状況の変化等の情報提供を図っている。		
が				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の委員を通じ、民生児童委員や児童クラブ・地域公民館の行事等に招待頂いたり、地域の方の協力を頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の居宅サービスセンターの協力にて、入居者を紹介頂いたり、また、ホームでの生活が困難になった時、他の事業所への入居相談にのって頂いたり関わりを頂いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、ホーム内の活動の様子やケアの取り組等報告、意見や助言を頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を主治医としている。定期受診や必要な受診支援を行なっている。家族の対応困難な時は、ホームのスタッフが付き添い状況を家族に伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	現在入院している方が、食事摂取ができず胃ろう処置にて退院予定の為、スタッフ間の連携がスムーズに行くよう更なる勉強会が必要と考えている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活の中で利用者のプライバシーを損ねない対応の徹底を行っており、ミーティングや勉強会にてスタッフに意識付けをしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	買い物・外出等の要求に添うよう配慮している。また散歩やドライブに出かけたり、日々の生活に変化を付けストレスが溜まらない様配慮をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の体調に配慮しながら希望に添った対応をしている。自分で洗濯したり・干したり・取り入れたりする行動の見守りや、TVを見たり・話をしたり利用者のペースに添った生活の見守りを行なっている。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	それぞれ行きつけの散髪屋に出かけ散髪が終わったらホームへ連絡して迎に行っている。また二ヶ月毎に美容師の方がボランティアに来訪される等協力頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	近所や家族の方に季節の野菜を頂いたり、その野菜で料理を一緒に作って食べたり、食事の後片付けを皆で協力して行なっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自動販売機でジュースを買ったり、移動パン屋さんのパンを買ったり、カップラーメンを好きな時に食べてり、食べることを日々の楽しみにされている。一人一人の楽しみごとを見守っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツを使用してもトイレでの排泄を基本としている。一人一人の排泄パターンを把握し、時間的にトイレへ誘導したり、失禁回数軽減の支援をしている。失禁時には十分な清潔の支援を行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴と、希望があれば夜間の入浴の対応を行なっている。夏場はシャワー浴も追加して行なっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の体調や希望を考慮し、本人のペースにて過ごしていただいている。また夜間良く眠れるよう、日中の活動を促したり等リズムが安定するよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブ・外食・料理づくり・誕生会など各行事にて楽しみごとを支援している。また、趣味や生活歴を生かした役割活動の支援も行なっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の管理能力に応じ、家族と話し合い、小遣いは自分で持てるよう配慮している。買い物に出かけたりする際は財布を持って出かけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・ドライブ・散歩・地域のイベント等その都度対応にて出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力による外泊・外出。またホームでの計画の中でのドライブにて名所や花の時期の遠出など、戸外へ出かけるを事を多く取り入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム便りの発送、家族の協力を頂いた電話での交流等、絆を絶やさない働きかけを支援している。また季節に応じはがき等を出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・友人が来訪時、ゆっくり話ができるようソファへ案内したり、お茶を出したり配慮している。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やミーティング等にて話し合う機会を多く持ち、身体拘束しない理念をスタッフ間で共有している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム全体に鍵を掛けることなく開放しており、外からも、中からも出入自由である。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者と共に過ごし、かかわりの中で状況を把握できるように努めている。夜間は一時間ごと訪室して安否確認を行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に照らしながら保管場所の工夫をしたり、数の確認をしたり、危険性を想定した対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練の実施や一人一人の状況に応じた摂食障害の研修を実施したり、ミーティングにて状況の変化等報告するなど密に連携を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月のミーティングにて対象者について勉強会を行い、実際に体験をしてみたり、救急時の対応マニュアルを目の届くところに置きいつでも見れるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団や市の消防署の方が来訪され、消火器の確認や設備の点検、避難誘導の指導等を頂いている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に説明を行っており、ケアプランの変更時にも説明を行い、家族面会時にも説明を行なう等理解を得られるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックにて変化があれば、朝、夕のミーティング時に小さな変化でも報告している。変化がある時は受診や主治医への報告にて対応行なっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の処方箋をファイルに閉じていつでも確認できるようにしている。受診時の処方薬の変化や・Drよりの指示等、ミーティングや連絡帳等で職員全員に伝わるように配慮している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、個々人の排便管理を行い、繊維質の多い食材等を献立の中に取り入れ排便対策を行なっている。又、状況によりDrとの連携も十分図っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず口腔ケアを行い、砂時計等の活用により十分な歯磨きの取り組みを行なっている。週二回義歯洗浄剤使用にて清潔の配慮をしている。また、歯科医との連携にて口臭対策の受診も行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録したり、水分量を把握できるよう記録し、また個別の状況に応じて食事形態を変えたり、嚥下補助食品を使用したり、食事摂取の意欲を促す支援を行なっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日の掃除に塩素系のハイターを使用している。また、感染症に対する予防・インフルエンザの対応など研修や勉強会を行い、スタッフ間で情報の交換を行なっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板の消毒、調理器具の洗浄、手指の消毒、冷蔵庫の点検、掃除の徹底を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム周辺に花を植えたり、玄関を開放し誰もが入りやすいように明るい雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室は明るく開放的であり、食堂も天窓を作り光が取り込めるようにしている。居間には花を飾ったり季節感を味わってもらえるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にソファを置いたり、広縁に椅子を置いたり、気のあった人同士で話せる場所があり、お茶を飲んだりする事がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇など持ってこられてり、衣装ケースを持って来たりとなじみの家具を置いたり、本人の居心地良く過ごせる様に工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	十分な換気を行い臭いがこもらない対策をおこなっており、冷暖房の調節は利用者の状況により配慮している。また加湿器や除湿器の対応も行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内が東西に広くあり歩行訓練などに活用している。また安全に配慮し転倒などの危険のないよう掃除を十分に行なっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレに目印をつけたり、暖簾をつけたりと一人一人の状況に応じて環境整備を行っており、不安とならないように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広縁でお茶を飲んだり庭先でグランドゴルフをしたり、外で食事をしたりと楽しみごとを作っている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・個々人の能力に応じた役割活動の取り組み。
- ・積極的に地域の行事に出かけ、地域交流を通しグループホームを知ってもらえるよう支援している。
(運営推進会議の取り組み他、グループホームとの交流)
- ・ホームに鍵を掛けず開放しており、いつも面会や出入りが自由にできるようにしている。
- ・ホームたよりや手紙にて家族との交流を図っている。
- ・毎週、ドライブに出かけ、利用者の気分転換を図っている。
- ・排泄ケアへの取り組み。